

沖縄県立埋蔵文化財センター企画展

発掘調査速報展 2007



開催期間 7月24日(火)

～9月2日(日)



資料品

(具志川島岩立邊跡西端出土品)

沖縄県立埋蔵文化財センター

もくじ

ごあいさつ	4
平成 18 年度調査実施分布図	2
具志川島岩立遺跡西区	4
渡地村跡	6
首里城跡「銭蔵跡」	8
首里城跡「真珠道跡・綾門大道跡」	10
嘉良嶽東貝塚	12
基地内埋蔵文化財分布調査	14
展示品リスト	16
平成 19 年度発掘調査予定一覧	18
発掘調査のきっかけ（契機）とは	19

凡例

1. 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センターの企画展「発掘調査速報展 2007」を補完するものとして編集した。
 2. 許可なく本書の複製および転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

沖縄県内には約2,500カ所の遺跡（平成18年度現在）が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、県内の遺跡について発掘調査や分布調査を実施し、調査研究及び教育普及活動をとおして、先人たちが残した貴重な文化遺産について、その保護と保存、公開、活用を図っています。貝塚やグスク、古墓、集落跡など過去の人々の生活痕跡が残っている遺跡から考古学的な手法を用いて得られた発掘調査の成果を分析・研究して沖縄の歴史や文化、自然環境を明らかにしていきます。

通常、発掘調査から公開に至るまで数年を要することから、発掘調査で得られた新しい発見等をいち早く公開するため、報告書発刊に先だって調査の概要や成果を展示公開する「発掘調査速報展」を毎年おこなっております。

今回の「発掘調査速報展2007」では、2006（平成18）年度に調査を実施した首里城公園の整備に伴う国営首里城公園（外郭北東地区）や県営首里城公園（真珠道地区、守礼門南東側）、南西諸島初となる特異な透かし彫りデザインが施された貝製品の出土した具志川島岩立遺跡、基地内埋蔵文化財（普天間飛行場内）、新石垣空港予定地内遺跡などの主な調査成果について、出土遺物や写真パネル・解説パネルで概要を紹介しております。また、資料整理を行った渡地村跡からは県内初となる火きり板が発見され、これらの成果も紹介しております。

埋蔵文化財をとおして、多くの方々が先史時代から現代に至る沖縄の人々の暮らしや文化、自然環境の変遷などを科学的に想像することで、沖縄の歴史や文化、自然に対する理解が深まることを期待すると同時に、埋蔵文化財の持つ価値や魅力がより一層広く浸透することにつながれば幸いです。

2007（平成19）年7月24日

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長　名嘉政修

平成 18 年度調査実施分布図

沖縄本島



具志川島岩立遺跡西区



渡地村跡



基地内埋蔵文化財



首里城跡
「真珠道跡・綾門大道跡」



首里城跡「錢藏跡」



八重山諸島



平成 18 年度発掘調査一覧

事業名	所在地	時代区分
首里城公園整備に伴う発掘調査	那覇市首里当蔵町・金城町	グスク時代～現代
新石垣空港予定地内遺跡発掘調査	石垣市白保	先史時代・無土器期～歴史時代・新里村期
基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市 (普天間飛行場内)	沖縄貝塚時代中期 ・グスク時代～近世
渡地村跡発掘調査	那覇市通堂町	近世～近代
具志川島岩立遺跡発掘調査	伊是名村具志川島	暫定編年前IV期 (縄文時代後期相当)
首里城跡「外郭北東地区」発掘調査	那覇市首里当蔵町	グスク時代～近代

くし かわじま しいたち いせきにしき 具志川島岩立遺跡西区

事業名：具志川島岩立遺跡発掘調査

所在地：島尻郡伊是名村具志川島

時代：暫定編年前IV期（縄文時代後期相当）

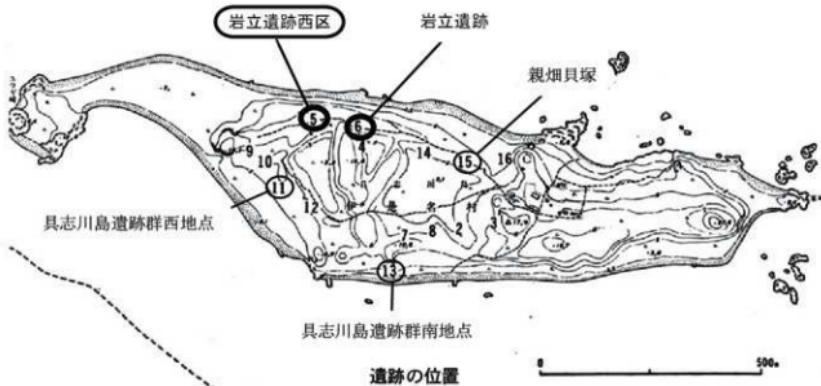
調査期間：2006（H18）9月4日～9月29日（平成18～21年度4ヶ年計画）

調査内容：この事業は伊是名村具志川島に所在する岩立遺跡遺跡西地区の発掘調査です。

具志川島に所在する遺跡は「具志川島遺跡群」と呼ばれ、過去2度（1976年～1980年、1989年～1992年）にわたる発掘調査の成果により、その重要性が指摘され、今回で3度目の発掘調査となります。

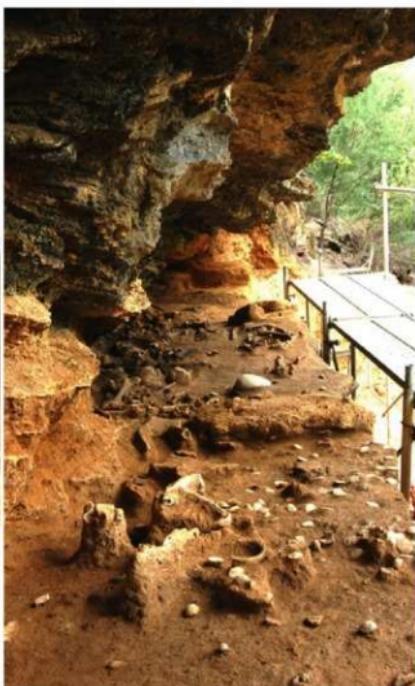
岩立遺跡西区は2度目（1989～1992年）の具志川島遺跡群発掘調査で初めて発掘調査が実施されました。この調査では、暫定編年前IV期（縄文時代後期相当）と考えられる3、4層から多数の人骨が検出されています。特に上部と下部では異なる葬法（複葬→単葬）が行われたことが確認され、重要な成果を納めました。また、岩陰壁面下の試掘調査によって、前III期（縄文時代中期相当）と考えられる生活跡も確認されたことから、時代によって異なる岩陰の利用方法があったことがわかりました。このような遺跡は1度目（1976～1980年）の具志川島遺跡群発掘調査の岩立遺跡でも確認されています。

今回は2度目の発掘調査の続きである5層から調査を開始しました。その結果、5層上部より、2基の灰土遺構が確認され、さらに5層下部から再び人骨層が確認されました。人骨は解剖学的に正位置を保っておらず、一端乾燥させて骨になつた後、再び動かされてまとめられた状態でした。また、人骨と共に、丁寧に4箇所の透かし彫りが施された貝製品が確認されたことも重要な成果です。





発掘調査前（5層から）



岩陰の状況（人骨検出面）



人骨・貝製品出土状況



人骨検出状況

わたんち むらあと
渡地村跡

事業名：臨港道路那覇1号線予定地内発掘調査

所在地：那覇市通堂町

時代：近世～近代

調査期間：2006（H18）年2月20日～6月30日

調査内容： 渡地村跡は、埋め立てにより西町と陸続きとなっていますが、近代以前は独立した小島で、西端には遊郭が存在していたことが知られています。今回の調査では、遊郭に関係すると断定できる遺構は確認されませんでしたが、スラ所（造船所）を思わせる鍛冶炉跡、近代以前の渡地村跡の北岸にあたる護岸遺構などが確認されています。護岸の下に堆積している層からは、15世紀後半～16世紀にかけての青磁が1000点以上出土し、県内初の発見と思われる火切り板をはじめ、漆が塗られた木製品、箸、縄などの通常では残りにくいとされる遺物も多く出土しました。

遺跡の保存状態が良かったことから、周辺にはまだまだ貴重な資料が残されていることが想定できます。



調査区全景（北より）



渡地村跡の位置と調査箇所



鍛冶炉跡



北側護岸検出状況（西より）

首里城跡「錢藏跡」

事業名：首里城跡「外郭北東地区」発掘調査

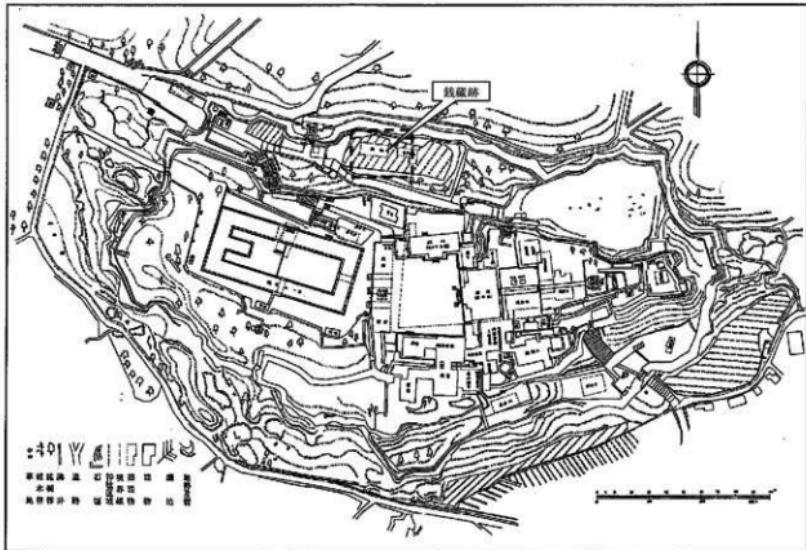
所在地：那覇市首里当蔵町3丁目1番

時代：グスク時代～近代

調査期間：2006（H18）年9月1日～2007（H19）年3月14日

調査内容：首里城跡では、史跡公園として整備する目的で、事前に遺構を確認する発掘調査を実施しています。平成18年度は、かつて北外郭内に位置していた「錢藏」の跡地を、約300m²調査しました。この錢藏には、お金や酒を収め、管理していたとする記録が残されています。調査の結果、16世紀以前のものと思われる礎石や石敷き遺構のほか、17～19世紀の錢藏の柱を据えていた遺構および石造製品製作跡、19世紀末～戦前までの石組み遺構などが検出されました。

出土遺物は中国産陶磁器、タイ産陶器、沖縄産陶器、瓦、貝製品、骨製品、金属製品、錢貨、玉製品、石造製品、石碑、石材片、獸魚骨、貝類などが得られていますが、陶磁器類の出土量は少なく、石造製品を製作した跡からは大量の石材片が出土しています。



首里城跡「錢藏跡」位置図

© 2006 Naha City / Shuri Castle Museum / Shuri Castle Foundation



調査区全景



敷石造構（第Ⅰ期）検出状況
B-7～9グリッド第V層上（東から）



根固め石（第Ⅱ期）検出状況
C-8グリッド第III層



石碑検出状況（表土）

首里城跡「真珠道跡・綾門大道跡」

事業名：首里城公園整備に伴う発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵町・金城町

時代：グスク時代～現代

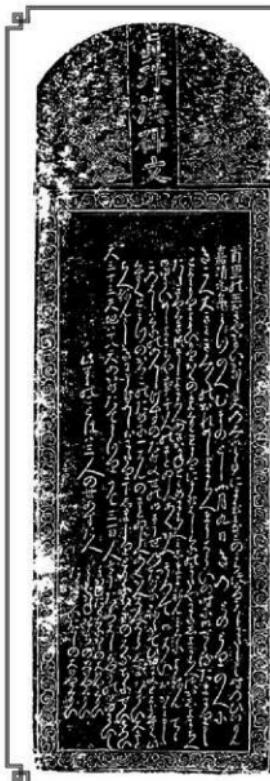
調査期間：2006（H18）年7月21日～10月3日

調査内容：1522年に竣工・開通した真珠道跡と綾門大道跡の復元整備を行う目的で、平成15年度より継続的に調査を行っています。平成18年度は、守礼門東南側の道路部分と平成17年度の調査で確認された真珠湊台跡の基礎部分を詳しく調査しました。綾門大道は守礼門（1527～55年創建）から現在の首里権現堂近くにあった中山門（1428年創建）までの約450mの区間を言います。調査の結果、綾門大道の南側石積みの基礎跡と排水溝が検出され、更に綾門大道にすりつける様に南西方向へ直角に折れた状態で真珠道跡が発見されました。真珠道の石疊道も去る大戦や道路工事の際に掘削で大部分が破壊されていました。発掘された真珠道の東西に残っていた石積みの基礎部分から道路の幅員を計測したところ340cm（二間弱）であることが判明しています。

「真珠湊碑文」

1522（尚真46）年建立の「真珠湊碑文」は首里城守礼門東南脇の石門西側にありました、戦災により破壊され碑文の一部が県立博物館に保管されています。碑文の内容は真珠道と真玉橋架橋の竣工・建設などの由来を記してあります。真珠道は首里城守礼門東南脇の石門を起点に、金城・讃名を経て那覇港の河口にあたる国場川に架かる真玉橋までの約4kmを一般の交通の利便性を図ることと国土防衛の要ともいえる真珠湊（那覇港・国場川河口。）を倭寇などの外敵から守る目的で王命により石疊道として建設されたようです。なお、真珠道の両脇にあった「真珠湊碑文」と「国王頌徳碑」が首里城復元期成会によって平成18年8月30日に復元され現在、首里城杜館の東に両碑文が設置されています。

（沖縄県教育委員会
『金石文－歴史資料調査報告書V－』1985より）





検出された真珠湊碑文台座跡（東側より望む）



検出された綾門大道（排水溝ほか）と真珠道の
起点（左側）を東側より望む 奥は守礼門



綾門大道（左側）と真珠道起点部分（右側）を西
側より望む



検出された綾門大道（排水溝ほか）と真珠道起点
部分（中央上）を北側より望む

か ら だけひがしきいづか 嘉 良 嶽 東 貝 塚

事 業 名：新石垣空港予定地内遺跡発掘調査

所 在 地：石垣市白保 1960 番地

時 代：先史時代（無土器期）～歴史時代（新里村期）

調査期間：2006（H18）年10月16日～2007（H19）年2月28日

調査内容：場所は石垣市白保、嘉良嶽から南東方向約700m、海拔5m前後に位置する貝塚です。復帰前から農地整備が行われていたため、大半が客土されて旧状を止めておらず、わずかに農道部分のみ農地整備から外れている関係で遺物包含層が良好に残存していることが期待されました。今回の調査では空港建設工事の工程にあわせて貝塚東側をⅠ区、南側（農道部分）をⅡ区、そして北西側をⅢ区として設定し、Ⅰ→Ⅲ→Ⅱ区の順で調査を行いました。

Ⅰ区とⅢ区では表面採集以外に遺物を得ることができませんでしたが、農道部分のⅡ区においては40×3mの範囲で黒褐色シルト層が確認されました。この層は平成6年度の試掘調査で確認されていた遺物包含層と類似していることから、全面調査を行いました。主に黒褐色シルト層からは石製品、炭化物、獸骨、その上面のサンゴ礫層からは土器、スイジガイ製利器、石器が出土しました。人工遺物は少量で20点ほど、自然遺物がコンテナ2箱分出土しました。サンゴ礫層は厚さ20cm前後で落ち込んでいる様相も見られ、調査区の南側に広がっていました。また黒褐色シルト層は厚さ全体的に30cm前後でしたが、

最も深い場所では1.5m堆積している部分も見られました。詳しい分析はこれからですが、おそらく当該層は後背湿地に生えていた植物の堆積層であるものと思われます。そして人工遺物が少なく、また遺構も確認されなかったことから今回の調査区は貝塚の主体部ではなく、上方からの流れ込みの可能性も考えられます。



嘉良嶽東貝塚Ⅱ区 サンゴ礫層からの土器出土状況



嘉良嶽東貝塚II区 重機による掘削作業



嘉良嶽東貝塚II区 床面清掃作業



調査区遠景（南から）

き ち ない まい そう ぶん か さい
基地内埋蔵文化財分布調査

事業名：基地内埋蔵文化財分布調査

所在地：宜野湾市（普天間飛行場内）

調査期間：2006（H18）年10月2日～2007（H19）年3月30日

調査内容：この調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地内にある埋蔵文化財（遺跡）の分布状況を把握するために、平成9年度より継続して実施しています。

平成18年度も引き続き、普天間飛行場内において試掘調査を実施しました（対象範囲：8.6ha、試掘地点：76箇所）。調査の結果、石積、墓などの遺構や、土器、黒曜石、鮫歯等の遺物が確認されています。また、耕作土と思われる層も多く見つかっており、周辺が畑などに利用されていたことがわかっています。これらの遺構や遺物が確認された箇所については、今後範囲確認調査を実施し、その範囲や内容を把握する予定です。





石積検出状況



調査範囲に残る古墓



耕作土堆積状況

展示品リスト

首里城跡「真珠道跡・綾門大道跡」

No.	種別
1	輸入陶磁器
2	土器
3	瓦
4	金属製品

嘉良嶽東貝塚

No.	種別
1	土器
2	石器
3	貝製品
4	自然遺物

渡地村跡

No.	種別
1	輸入陶磁器
2	タイ産半練器
3	土器
4	沖縄産陶器
5	瓦質土器
6	瓦
7	坩堝（るつぼ）
8	石器・石製品
9	貝製品
10	骨製品
11	木製品
12	繩
13	錢貨
14	鉄滓

具志川島岩立遺跡西区

No.	種別
1	貝製品
2	骨製品

具志川島岩立遺跡（1977～1979年度 伊是名村教育委員会調査）

No.	種別
1	貝製品
2	貝製品
3	骨製品
4	土器
5	貝製品
6	骨製品

※ No.1 は第1次調査出土遺物

No.2・3 は第2次調査出土遺物

No.4・5・6 は第3次調査出土遺物

首里城跡「錢藏跡」

No.	種別
1	輸入陶磁器
2	瓦
3	磚
4	金属製品
5	石造製品
6	石碑
7	輸入陶磁器
8	沖縄産陶器
9	埴堀（るっぽ）
10	瓦
11	漆喰
12	錢貨
13	輸入陶磁器
14	沖縄産陶器
15	石造製品
16	石材
17	輸入陶磁器
18	瓦

※ No.1～6 は表土・搅乱層出土遺物

No.7～12 は第Ⅱ層出土遺物

No.13～16 は第Ⅲ層出土遺物

No.17・18 は第V層出土遺物

平成 19 年度発掘調査等予定一覧

遺跡名・調査名	調査目的・原因	調査予定期間
具志川島岩立遺跡発掘調査	自然崩壊に伴う発掘調査	5月～6月
円覚寺跡発掘調査	円覚寺跡保存修理に伴う発掘調査	7月～8月
首里城公園 (守礼門北東側地区) 発掘調査	県営首里城公園整備に伴う発掘調査	7月～9月
箕隈原 A 遺跡発掘調査	道路建設工事に伴う発掘調査	7月～11月
基地内埋蔵文化財分布調査	基地内埋蔵文化財分布状況の確認調査	8月～12月
首里城跡発掘調査(外郭北東地区)	国営首里城公園復元整備に伴う発掘調査	8月～1月
沿岸地域遺跡分布調査	沿岸地域の埋蔵文化財分布状況の確認調査	9月～12月
首里城公園(中城御殿) 発掘調査	県営首里城公園整備に伴う発掘調査	10月～11月
新石垣空港予定地内遺跡発掘調査	新石垣空港建設に伴う発掘調査	12月～1月

発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査は、「学術調査」とも呼ばれ、目的意識（研究テーマ）を持って取り組みます。それに対して行政機関（当センターや市町村教育委員会など）がおこなう発掘調査は「行政発掘」と呼ばれ、その動機や原因によって大きく二つに分けることができます。

ひとつは、先人の残した貴重な文化的遺産である遺跡（埋蔵文化財）を後世に伝えるため現地保存を目的とした確認調査があります。具体的には、国や県・市町村指定の史跡（文化財指定を受けた遺跡）の保存・活用を目的とした史跡整備に伴う遺構確認調査、保存を目的に遺跡の範囲や性格などを明らかにする遺跡範囲確認調査がそれに相当します。

もうひとつは、道路工事や土地改良の諸開発に伴う記録保存を目的とした発掘調査で、開発のために消滅する遺跡を事前に発掘調査し、綿密な記録作成をおこないます。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては以下にお問い合わせください

- | | | |
|----------------|------|------------------|
| ○沖縄県立埋蔵文化財センター | 調査課 | TEL 098-835-8752 |
| ○沖縄県教育庁文化課 | 記念物班 | TEL 098-866-2731 |

メモ

平成 19 年度企画展
「発掘調査速報展 2007」

2007（平成 19）年 7 月 24 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター
住所 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7
電話 098-835-8752
FAX 098-835-8754

第27回文化講座
発掘調査速報 2007

【日時】 8月4日（土）午後1:30～5:00

【場所】 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

【講師】

首里城公園発掘調査（真珠道地区、守礼門北東側） 金城亀信
基地内埋蔵文化財分布調査 中山晋
渡地村跡発掘調査 中山晋
具志川島岩立遺跡発掘調査 片桐千亞紀
首里城発掘調査（外郭北東地区） 仲座久宣
新石垣空港予定地内遺跡発掘調査 伊波直樹

移動展

発掘調査速報パネル展 2007

開催期間：2006年9月8日（土）

～9月16日（日）

開催地：八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館

- 開所時間 午前9時～午後5時まで（入所は午後4時30分まで）
- 休所日 毎週月曜日、国民の祝日（こどもの日、文化の日を除く）
年末年始（12月28日～1月4日）、慰靈の日（6月23日）
※祝日と月曜日が重なった場合は、翌火曜日も休所
- 交通 ◇沖縄自動車道西原ICより車で7分
◇市外線バスターミナル発 那覇バス 97番
『琉大附属病院前』下車徒歩1分



火きり板・綿（渡地村跡出土品）